

C 7/10(日)9:50-12:50 (受付開始 9:00)

不安症と不眠症に対する薬物療法のあるべき姿—ベンゾジアゼピン受容体作動薬の適正使用—

講座情報

わが国の不安症、不眠症に対する薬物療法においてベンゾジアゼピン(BZD)受容体作動薬が中心となっている。しかしながら依存性、認知機能低下などの副作用の問題から適正な使用方法が議論となっている。さらに別のカテゴリーの薬物の有用性が注目されて来ている。

当日はBZD受容体作動薬のメカニズムと副作用、それに置き換わるような薬物の特徴について紹介する。また多剤併用の改善方法、非薬物療法の意義などについても紹介する。

講演者情報

渡邊 衡一郎

杏林大学医学部精神神経科学教室 教授

プロフィール

<学歴>

1988年3月 慶應義塾大学医学部卒業

<職歴>

1988年5月 慶應義塾大学医学部研修医

1989年5月 国家公務員共済組合連合会立川病院神経科

1991年5月 医療法人財団厚生協会大泉病院

1997年4月 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室助手

2006年4月 慶應義塾大学医学部専任講師

2012年4月 杏林大学医学部准教授

2014年4月 杏林大学医学部教授

専門領域

臨床精神薬理

主に向精神薬の副作用・効果・アドヒアランス研究

主要著書

今日の治療薬(南江堂)

座談会 うつ病治療—現場の工夫より—(メディカルレビュー社)

読むだけでコツがつかめる 問診カトレーニング(アルタ出版)

モーズレイ処方ガイドライン第10版(アルタ出版)

「うつ」の構造(弘文堂)

精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法

—多職種連携から生まれる新しいコミュニケーションの提案—(南山堂)

レジリアンス—症候学・脳科学・治療学—(金原出版)